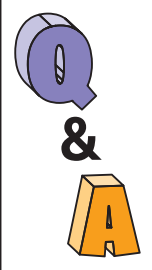


お答えします！ ミルクの気になる

ギモン

vol.14



牛乳・乳製品に関するさまざまな“ウワサ”や“ギモン”を、わかりやすく解説します。今回のテーマは「牛乳の日・World Milk Day」です。皆さんにもおなじみのロゴから、活動の目的や意義を紹介します。

Q SNSやポスターで見かけるこのロゴは、何を意味しているの？

A 世界的な記念日「牛乳の日」にみんなの“ミルク愛”のつながりと広がりを表現しています

「愛してミルク？」のロゴは、6月1日の「牛乳の日」と、それに続く「牛乳月間」(6月)をPRするために国内で使われているものです。関連するイベントのポスターやのぼり、配布グッズ、SNSでの情報発信などで、皆さんも目にしたことがあると思います。

「牛乳の日・牛乳月間」は、2007年に日本酪農乳業協会(現・Jミルク)が決めました。ロゴは2017年から使われていて、「酪農乳業関係者と生活者が自らの“ミルク愛”を表現し、つながり、広げる」という意味が込められています。

6月1日が「牛乳の日」になった由来は、「World Milk Day」という国際的な取り組みです。2001年、FAO(国連食糧農業機関)は、牛乳や酪農乳業に対する理解と関心を高めることを目的に、毎年6月1日を「World Milk Day」とすることを提唱しました。

6月は、ミルクにとって特別な意味があります。欧米の

酪農産地では新しい牧草が育つ季節で、牛たちは放牧地に出て青草を食べ始めます。そのためこの時期には、ミルクをもたらす命や自然、働く人々に感謝するお祭りが、各地で古くから行われてきました。

「World Milk Day」には現在、100か国以上の政府・公的機関、企業や酪農乳業団体、個人が、SNSやイベントなどを通じて参加しています。2025年には全世界でのリーチ数が12億人に達するなど、国際的な“ミルクの記念日”として定着しています。

ちなみに、日本の「World Milk Day/牛乳の日 2025」の取り組みは、グローバル・デイリー・プラットフォームによる集計(SNSでのイベント言及数)で世界1位を獲得しています。

19年前に始まった日本での「牛乳の日」の取り組みは、その継続性と広がり、いま世界的にも高く評価されているのです。



お知らせ

「ミルクの気になるギモンQ&A」では、牛乳・乳製品や酪農乳業にまつわる身近な疑問を、最新のエビデンスを示しながらわかりやすく解説しています。シリーズのバックナンバーはJミルク公式サイトで公開中。ダウンロードして印刷すると、配布用のチラシとしてもお使いいただけます。

「ミルクの気になるギモン」のバックナンバーはこちら



Jミルク ミルクの気になるギモン

info@j-milk.jp

「牛乳の日・牛乳月間」ロゴ



「愛してミルク？」のロゴに描かれているのは、ミルクの妖精「ミルミーちゃん」と牛飼いの「カウカウさん」。ミルミーちゃんは体の形を自在に変えられて、運動と(音楽の)ロックが好き。カウカウさんも音楽と料理が得意で、牧場でときどきエアギターを披露するそうです。

「牛乳の日」以外に、「運動してミルク?」「乾杯してミルク?」「乳和食してミルク?」など派生バージョンも。ロゴデータや関連ツールは、Jミルク公式サイトで無償配布中。

「牛乳の日・牛乳月間」ロゴダウンロードはこちら



Jミルク 愛してミルク?

「ポータルサイト」#牛乳でスマイル ~6月1日は牛乳の日・6月は牛乳月間~



牛乳でスマイル 牛乳月間